

RUBeC 演習に参加して

川 俣 光 司

Koji KAWAMATA

情報メディア学専攻修士課程 1年

1. はじめに

2018年8月18日から9月3日までの期間、アメリカ合衆国カリフォルニア州にある Ryukoku University Berkeley Center で行われた「RUBeC 演習 I」に参加した。カリフォルニア州バークレー市にある Jodo Shinshu Center にて、約2週間にわたって英語のライティングとプレゼンテーションについて学習した。また、企業訪問と大学訪問を行った。企業訪問では Keysight Technologies Company, 大学訪問では龍谷大学の協定校であるカリフォルニア大学デービス校 (UC Davis) を訪問した。今回は、授業内容について報告する。

2. 参加目的

RUBeC 演習に参加した理由は、2018年10月2日からカナダのバンクーバーで行われる国際学会「RecSys 2018」でのワークショップの口頭発表で参加予定であったため、英語でのプレゼンテーションの練習のためである。また、アメリカの文化や社会について日本との違いを感じることで自分自身の視野を広げるという思いで参加した。

3. 授業内容

RUBeC 演習での授業内容として、テクニカルライティングとプレゼンテーションに分かれている。この授業が終わった後、Teaching Assistant 付きで授業の課題に取り組んだ。

3.1 テクニカルライティング

テクニカルライティングの授業では、冠詞 a, an, the や単数形や複数形、複数の文を1つにする方法について学んだ。その学んだことを基に事前に作成



図1 プレゼンテーションの風景

した自身の研究の要旨を正しい文法、表現方法をブラッシュアップしていった。英語論文を書く上での基礎知識を身に付けることが出来た。

3.2 プレゼンテーション

プレゼンテーションの授業では、発音や文中での区切り方、強調、ジェスチャーなどプレゼンテーションに必要なことを学んだ。その学んだことを事前に作成した自身の研究のパワーポイントでの発表練習で反映させプレゼンテーションスキルの向上に取り組んだ。特に文を区切って話す方法とジェスチャーをとることが印象に残っている。どこで文を区切って強調して話すなどの聞いてもらいやすい話し方について意識した。また、日本での学会発表などではそれほどジェスチャーを意識をしたことがなくとても難しく感じた。

この授業では最後に自身の研究についてプレゼンテーションを6分間行った。プレゼンテーションの風景は図1に示す。このプレゼンテーションでは特に文の区切り方、強調部分での話し方、アイコンタクトを意識してできるようにはなった。

英語でのプレゼンテーション方法を学んだことにより、プレゼンテーションへの意識が変わった。国際学会に臨む前にこのようなスキルを学べて良かった。

4. 企業訪問

8月22日、8月29日に RUBeC 演習で行われた企業訪問、大学訪問について報告する。

4.1 Keysight Technologies Company

企業訪問では Keysight Technologies Company を訪問した。

Keysight は業界リーダーとして多くの実績を誇っている計測機器メーカーである。このように業績があるのは品質管理に力を入れていることが理由として考えられる。見学で見た部分ではあるが例えば温度の耐性テストや落下試験、静電気試験、落雷試験、振動試験、妨害電波の試験、湿度試験などを行っている。どの試験も高いレベルで行われていた。Keysight は計測機器の会社であるので高いレベルの品質管理こそが顧客に対しての信頼の肝になっているのだろう。また、多様な観点から品質管理を行うことにより品質が保証される範囲を広げることができている。保証範囲を広げることにより計測機器の使用環境の範囲が広がるため、契約企業が増え、多くの実績を上げていることがわかった。

Keysight では、働く環境としてフィットネスジムや農園などあり働きやすい環境になっていた。また、会社内に学校があるなど社員やその社員の家族を大事にしている印象がある。Keysight は社員がどれだけリラックスできて働きやすい空間をどう作るのかに尽力していた。

このような徹底した品質管理と働きやすい環境を通して Keysight の考えが知れたのは良い経験となった。

4.2 UC Davis 校

大学訪問では UC Davis を訪問した。UC Davis は、元々農業学部から始まったのでかなり広大な土地が

あり、龍谷大学と比較するとかなりの規模の大学だった。広大であるが故に自転車での移動が多く見られた。また、カートなどでも移動が行われていた。学内の道路には、中央分離帯やロータリー交差点のような自転車交通を円滑に行うための工夫がなされていた。この観点から見ても移動の大変さが伺えた。

UC Davis では、授業では座学だけではなく学部 of 早い段階で実際に演習を行っていた。機械学部では旋盤の授業などと知識だけでなく技術を身に着ける事にも注力していた。また、学部の2年生から研究ができるようになっていた。早期に研究活動をするにより自己のやりたいことの発見や成長を促すことのできる形態だと思う。

5. おわりに

今回 RUBeC 演習 I に参加してテクニカルライティングとプレゼンテーションについて学んだ。この演習に参加して英語を聞く力が身についた。ただし、まだ話すとなるときこちない部分がある。なので、今後は、語彙力を増やし、話したいことをスムーズに話せるようにしたいと思う。この演習で学んだスキルを国際学会での発表に活かしたいと思う。

また、約2週間という短い期間ではあったがアメリカの文化について触れ日本との違いを知ることが出来た。この演習により自己の視野が広がり、良い経験となった。今後は積極的に海外への挑戦をしていきたいと思う。